

巻頭言

熊本県立天草高等学校

校長 平田 浩一



「何ができるかではなく、何が知りたいか」、「科学の原動力は好奇心」、「困難な問題に挑戦し、全精力を集中し、あきらめずに継続する」、これは、ノーベル医学生理学賞を受賞された本庶佑京都大学特別教授の言です。スーパーサイエンスハイスクール(S S H)が目指すもの、課題研究等の取組を通して、主体的に学びに向かう力や人間性を

を育み、問題を発見する感性や探究心、論理的な思考力、わかりやすく伝える発表力を身に付け、科学技術に夢と希望を持つ創造性豊かな人材を育成することであると考えます。

さて、本校は昨年度4月からS S Hの指定を受け、「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合言葉に、「地域の豊かな自然環境の中で多様な能力を身に付け、世界に飛躍する科学技術人材の育成」のテーマのもと、研究開発に取り組んできました。

1年目は、1年生全員が学校設定科目「天草サイエンスⅠ」を受講し、「天草学連続講義」で天草の自然や産業、災害等について学びました。関心が人文科学系統に多かったものが自然科学系統にも目が向くなど、視野の広がりが見られました。その後、それぞれグループをつくり、興味を持ったことについて自ら調べたり実験をしたりしながら考え、年度末にはS S H研究成果発表会を行うことができました。

今年度は、1年目の実践を踏まえ、新たな取組として、2学年に天草サイエンスクラスを設置するとともに、天草サイエンスⅡや数科学探究Ⅰの学校設定科目の開発、アクティブラーナーを目指した自学力育成プロジェクトの実施、小中学生を対象とした天草サイエンスアカデミーの実施、関西研修や海外研修の実施などグローバル社会で活躍する人材の育成にも取り組みました。研究テーマは天草にこだわりながらも、活動フィールドは国内外の大学・企業と連携して進めており、学校全体としての探究活動の充実、教育課程の開発、授業改善、人材の育成に広がりや深まりのある取組を展開したところです。

生徒たちは、積極的に課題研究に取り組むとともに、研究発表会にも意欲的に参加し、関係機関の質問や御助言により多くの示唆を得、自信を深めることができました。科学技術に対する視野の広がりや関心の高まり、プレゼンテーション能力の向上、探究活動のモデルと位置付けている科学部の実績、地域との連携や地域への貢献の深まりなど、一定の成果を見せているところです。

しかしながら、広がりを見せれば見せる程、課題も出てきました。理数科のみならず全ての教科での授業改善、進路指導への反映と成果、英語力の向上並びに生徒や職員の変容についての評価方法の開発などです。これらを3年目の課題として位置付け、一層研究を深めていきたいと考えておりますので、本実施報告書を御高覧いただき、御教示いただきたいと存じます。

最後になりましたが、研究開発の推進にあたり、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構及び熊本県教育委員会をはじめ、多くの関係機関の皆様方の御指導・御支援に対し心より感謝申し上げます、発刊のあいさつといたします。